

第3回丹波篠山市総合教育会議 議事録

1 日 時

令和2年3月2日（月） 19時00分～21時32分

2 場 所

丹波篠山市立四季の森生涯学習センター西館2階 研修室大

3 会議に出席した構成員

市 長	酒井 隆明
教育委員会	
教育長	前川 修哉
教育委員	酒井 克典
教育委員	中村 貴子
教育委員	垣内 敬造
教育委員	井上 友香

4 事務局出席者

	部長	稲山 悟
	次長	酒井 宏
教育総務課	課長	小林 康弘
学校教育課	課長	尾松 直樹
教育総務課	係長	田中 真紀子
教育総務課	主事	河野 元秀

5 次第及び協議・調整事項

別紙の通り

酒井市長	<p>1 開会</p> <p>本日は「中学校の部活動」について議論をしたいと考えている。また、新型コロナウイルス感染症対策の対応について、私として大変残念に思うことがあるので、合わせて教育委員会事務局職員に伝えたい。</p> <p>総合教育会議というのは、市長が教育について重要な事案を議論する会議である。「中学校の部活動」の課題について、学校と教育委員会事務局だけで解決を図ろうとしているのではないかと感じたため、総合教育会議にて議論をして、市として解決を図るべきと考え招集した。厳しい意見もするかもしれないが、今後、市長、教育委員、教育委員会事務局が連携してより良い丹波篠山市の教育にするためであることを理解してほしい。</p> <p>学校は地域のものであり、地域の声を十分に聞いて運営する必要があると思っている。現在では、その方向で進んでいると思っていたが、少し異なる部分が見受けられるので、これを機に今後より良い解決、運営を図れるようにしていきたい。</p>
酒井市長	<p>2 協議事項</p> <p>(1) 中学校の部活動について</p> <p>本日、総合教育会議を開催するに至った発端は、篠山東中学校のソフトボール部の問題である。2月4日に市長と教育長宛に署名が提出された。概要としては、現在、2年生が6名、1年生が2名の8名在籍しており、来年度新1年生が入ってくるとソフトボール競技が成立する9名に達するが、篠山東中学校の部活規程のなかで、「1年生、2年生で競技成立の人数が揃っていない状況が2年続いた場合は廃部にする。」という規定があるため、すでに篠山東学校では廃部を決めている。部活を存続してほしい保護者と廃部を決めた学校側で考え方が違ったため問題となった。</p> <p>私がこの件を聞いたのは、昨年秋ごろの「おでかけ市長室」であった。それが一部保護者の意見なのか、多くの保護者の意見なのか理解出来なかったので、基本的には中学校と保護者で話をさせていただくべきであると思いい様子を見ていたが、学校との話が進まず署名活動に至ったと認識している。</p> <p>その時点で、教育委員会事務局から各学校の部活動に関する規程について説明を受けたが、生徒数の減少に伴い、教員数が減るので、安全な部活運営を行うには、部活動数を減らすしかないとのことであった。しかし、生徒と保護者は「やりたいことをやりたい、やらせたいと考えており、行き違いが出ているのだと思うので、地域の声を聞き対応を検討してほしい。」と教育委員会事務局へ私から話をしたが、なかなか前に進まなかった。教育委員も含めての議論が必要であると思いい、総合教育会議を開催した。</p> <p>論点としては、1つ目が、「篠山東中学校の部活動を4月以降どのようにするのか」、2つ目が、「今後の部活動を市としてどのような方向性で進め</p>

酒井次長

るのか」である。これは、篠山東中学校に限って起こる問題ではなく、規定に則ると、市内全中学校で同様の問題が起こる可能性があり、市内中学校で一定のルールを設けていくことが必要である。解決に必要な支援は前向きに検討していくつもりである。ただ、今までにこういった支援の要請や意向は教育委員会から受けたことはない。今後の部活動が、保護者、地域住民、生徒、教員に理解されるようにしていく必要があると思うので、できる限りの対応はしたい。

中学校生活における部活動は、大きなウエイトを占めていて、教員数が足りないから部活動ができないというのは理解されにくいと思う。解決方法を教育委員会事務局と学校だけで決定するのではなく、地域の声を集めて、できるだけ良い方向にもっていきたい。

では、篠山東中学校の現在の状況について説明を求め
篠山東中学校の現況について説明する。

規程により、ソフトボール部、男子卓球部が来年度から募集停止という状況である。現在、署名等の内容も考慮して、来年度については、新1年生に入部希望があれば募集を実施する方向で検討されている。

当市及び全国的な中学校の部活動の現状について資料に基づき説明する。

1 枚目、(1) 中学校の部活動の位置づけは、学習指導要領の総則に定められている。「1 教育課程の改善と学校評価、教育改定外の活動との連携等」の「ウ」に書かれているが、この文章は、令和3年度からの新しい学習指導要領を記載している。今は令和元年度であるので、現在の学習指導要領との違いは、中段の「学校教育がめざす資質能力の育成に資する」という部分と文末に「持続可能な運営体制が整えられるようにするもの。」の2つの文言が、新しい学習指導要領の部活動のあり方に追記されている。

(2) 市内の5つの中学校では、学校規模、職員数、教育課程を鑑み、それぞれに部活動の実施要項や規程を策定している。特に、廃部の規定については、少子化の影響も考慮し、生徒が安全安心に活動できるように各学校で創意工夫されている。

資料1の篠山中学校では、顧問がいなくなった場合や部員数が規定に満たなくなった場合に協議をして学校長が決めることになっている。

資料2の篠山東中学校は、新チームが結成できない生徒数が2年間続くと、次年度の募集はせずに、すでに入部している上級生は、他校等の合同チームを模索して卒業まで行うこととし、その後廃部するとなっている。

資料3の西紀中学校も廃部の判断基準は篠山東中学校と同様だが、募集停止後の1年後には廃部予定としている。

資料4の丹南中学校は、篠山東中学校と同様の規定である。

資料5の今田中学校は、篠山中学校と同様で、生徒の減少と顧問の不足によって、顧問会と職員会議で廃部について協議決定される。

規定に満たない少人数となった運動部活動が大会等に出場するための救済措置として、中学校体育連盟は、資料 6 の「複数校合同チームによる大会参加規程」を設けている。基本は、規定数に満たない学校同士 2、3 校で合同チームを組むことを認めている。なお、市内で 1 校だけが規定数に満たない部活動がある場合は、満たしている学校との合同チームを認める規定になっている。

資料 7 は、本年度の秋以降の市内の合同チームを組んでいる部活動である。具体的には、ソフトボール部は、篠山中学校と篠山東中学校、野球部は、西紀中学校と今田中学校、男子バレー部は、篠山中学校と今田中学校、女子バレーボール部は、篠山東中学校と今田中学校で合同チームを組んでいる。ホッケー部については、篠山中学校と丹南中学校が組んでいるが、これは中体連加盟のチームではなく、市全体での合同チーム扱いとなっている。

資料 8 は、2 年前から丹波篠山市が制度化した部活動支援員制度の活用状況である。平成 29 年度は 7 人、平成 30 年度は 12 人、今年度は 15 人に部活動支援員として登録いただいている。年々充実を図れている。

資料 9 は、兵庫県下の合同チームや部活動数等を調べたものである。地域別であるが、資料 9 の下部に合計を記載しており、丹有地区は、最も多い合同チームを持っている。

資料 10 は、平成 17 年、27 年、31 年度の県内の各種目による部活動の数と所属人数の推移である。

2 (1) 資料 11 から 13 で市教委の取組を紹介している。平成 29 年度には、「中学生が伸びる運動部活動の指導を支援のあり方について」と題して研修会を開催した。平成 30 年度には、兵庫教育大学の有山篤利教授を招聘し、スポーツ庁が出した部活動ガイドラインの趣旨や問題点から、これからの部活動の価値や役割を考え、変革の必要性とスポーツとして学校の部活動だけでなく、地域や市域全体にシフトとしていくべきであることを教えていただいた。令和元年度は、さらに有山教授から「運動・スポーツ部活動を巡る諸問題と展望」についての講演をいただいた。

資料 14 は、兵庫教育大学と丹波篠山市教育委員会の連携協定による部活動実態把握や今後の方向性を示した資料である。平成 30 年度は、中学校長会とともに、国や兵庫県が示した「運動部活動ガイドライン」を踏まえ、市のガイドライン作りを進めてきた。令和元年度は、有山教授の知見と指導により部活動改革に向けての実態把握と新たな部活動の体制案づくりを進めている。

資料 15 は実態把握のための調査資料および分析・考察である。これを受けて丹波篠山市として新たなスポーツ環境をどうしていくのかの素案づくりを検討している。

その中で、2 月 4 日に、篠山東中学校のソフトボール部保護者会から、2

	<p>つの要望が提出された。1つ目は、篠山東中学校ソフトボール部の存続を求めること、2つ目は、市中学校のソフトボール部活動に対する支援、活動のあり方の検討を求めることである。署名が市長と教育長に提出され、署名数の内訳は、説明資料最終ページに記載のとおりである。</p> <p>署名後の対応は、2月4日に市長・教育長あてに署名提出、2月13日までに署名の内容を点検、2月16日に市教育委員会とソフトボール部保護者会の協議、2月19日には篠山東中学校学校運営協議会が開催された。運営協議会の内容は参考資料最終ページに添付している。2月20日に、学校運営協議会報告書が市教育委員会に提出され、2月21日、教育長から篠山東中学校長への意見書を送付し、また中学校長会からの意見を受けた。2月26日にこの件について臨時教育委員会を開催し、2月28日に市教育委員会とソフトボール部保護者会との協議、それから篠山東中学校とソフトボール保護者会との協議を行った。</p>
酒井市長	<p>署名が提出されたことを、当初教育委員会事務局はあまり快しとしていなかったように私は捉えた。学校現場のことを別の者が口を出しているように受け取っていたのではないかと思う。</p>
酒井次長	<p>そういう面もあったかもしれない。</p>
酒井市長	<p>私は全く違う考え方で、教育大綱では「地域とともにある学校」、「市民みんなが学校づくり」と決めており、コミュニティ・スクールの充実や市民、保護者、地域住民が一体となって学校運営に参画することになっている。学校で何か問題が起きた時は、地域住民を含め議論をするということは、むしろあるべき姿だと私は思う。</p>
酒井次長	<p>話し合う場は大切だと思う。</p>
酒井市長	<p>本来は、署名がなくても、要望がなされていたのであれば、地域を含めての対応をしていれば良かったと思う。また、学校だけでは予算の関係なども含めて解決が難しいと思うので、教育委員会や市に相談してもらえば良かった。今後について、部活動をどのように存続し子ども達が活動していくのか、資料6の合同チームを作ればよいと思うが、教育委員は、ここまでの話について正しく理解されているか。</p>
酒井委員	<p>情報共有いただき、理解している。</p>
酒井市長	<p>合同チームというのはここに記載のとおり、同一市内でしか結成できない。規定の人数未満の学校間同士で結成する、あるいは、規定の人数未満の学校と規定の人数以上の学校で編成を認めるということである。部活が存続していることが前提であるので、廃部になると合同チームは組めない。</p> <p>令和2年度から、「部活動指導員を新たに市職員として雇用し中学校における部活動の支援の充実を図る」と教育委員会の方針であるが、「部活動支援員」と「部活動指導員」の違いを教えてください。</p>
酒井次長	<p>「部活動支援員」（以下支援員）は、顧問の意向を受取り、練習を支援していくというものである。「支援員」は協力者という形態で事業をスタ</p>

<p>酒井市長 尾松課長</p>	<p>ートしており、「支援員」のみでは、部活指導や引率ができず、教員が同伴することが必要である。令和2年度からは、「部活動指導員」（以下指導員）を実施する。大きく変わる点が、単独での引率や部活指導が可能な点である。「指導員」は、県事業で進めてきており、スポーツ庁が出した「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」でも「指導員」を配置して、活動の充実を図ることが求められている。「指導員」は、雇用形態をとり、試合の引率等の責任ある部分も受け持つことが可能になる。</p> <p>「指導員」をどこの学校に何人配置するか決まっているのか。</p> <p>これから各学校に希望を聞く。教員の配置がされ、誰がどの部活動の顧問をするかということが決まらないと配置ができない。4月早々に学校に聞き、希望する学校には可能な範囲で配置をすることになる。</p>
<p>酒井市長 尾松課長</p>	<p>「指導員」というのは、1週間のうちに何日勤務し、給与はどれくらいになるのか。</p> <p>1日2時間で週5日勤務、1週間10時間で1ヵ月40時間を超えない範囲となるよう決めている。会計年度任用職員の身分で時給1,353円となる。</p>
<p>酒井市長 酒井次長</p>	<p>1つの部活動に教員が2名配置するとのことであるが、「指導員」を充実させれば、教員の代わりができるのか。</p> <p>部活動は学校の責任として行うので、顧問として教員を必ず一人は配置する必要がある。全てを「指導員」に任せることはできない。</p>
<p>酒井市長 酒井委員</p>	<p>ここまでで、質問や意見はどうか。</p> <p>冒頭に市長が事務局の話をされたが、教育委員会としてまずかったと思う。我々がきちんと論議をしなかったばかりに、市長に迷惑をかけたという思いはある。「令和2年度丹波篠山の教育」、「教育振興基本計画」の中で部活動について記載はあるが内容が甘く、我々の責任であると思っている。教育の方向性、チェック機能は教育委員にあるので、それが十分に果たせなかったことについては非常に申し訳ない。情報の共有も十分でなかったように思う。</p> <p>部活動の問題については、規模の小さい学校で起こりうる問題であると思う。来年度、篠山東中学校は20数名の入学生ということで、1クラス規模である。生徒も教員も少ないなかで、部活動を残せというのは無理があることは理解できる。ただし、そのことを市長が言われるように、子ども達、保護者、地域住民とすり合わせるができなかったのが今回の問題が発生していると思う。ただ、中学校現場が過労死寸前の状態で勤務していることは認識しておくことが必要であり、どんな支援が可能であるのか危機を共有していくべきである。</p>
<p>酒井市長 井上委員</p>	<p>支援の具体については、すぐに決定できるものではないと思う。十分に協議して決定するべきであり、ここでは方向性の議論をしたい。</p> <p>部活動について研究を重ね、研修会の開催や保護者の意見を聞くなど、教育委員会で様々な対応策を検討してきたと思う。</p>

酒井委員	<p>文科省は、「中学校は1学年4クラスの計12クラスを標準とする」としており、これだけの人員がいれば子ども達が希望する部活は存続できると考えられるので、「これに沿うように積極的な統廃合も含めて検討すること。」と言っている。一方、「特段の事情があれば統廃合をしないで地域の良さを活かしていくこと。」とも言っている。部活動の問題解決の前に、学校の適正配置から今後の方向性を決めなければ、根本的な解決に至らないのではないか。篠山東中学校は、かつて1学年で3クラス規模の学校であったが、今では1クラスになった。大事な学校であると思うが、生徒数の減少で中学校も困っていると思う。統廃合も含めた議論をすべきであったと反省している。</p>
酒井市長	<p>単なる部活動と思っているかもしれないが、単なる部活動ではない。子ども達の活躍というのは、何より地域の励み、喜びである。子ども達が頑張る場を奪うことは、地域も納得できないし、子ども達も学校へ不信感を抱くのではないか。私は、教育・子育てに力を入れており、小さな学校でも予算的に配慮している。部活動で子ども達が元気になり、地域も励みになるということは、大事にしたい。競技に多くの人数が必要なサッカー・野球・ソフトボール部は廃部になる可能性が大きいので、廃部にしなければ合同チームの道も開けるので、そのような対応はできないのかと考える。</p>
酒井委員	<p>市長から小さな学校でも子ども達の夢を叶えてやってほしいという話があったが、これは統廃合を考えずにやっっていこうという宣言であると思う。地域の学校をどうするのかという明確なビジョンがないと議論ができなかった。</p> <p>一方、教員の働き方についても問題がある。支援の方向性を教育委員会が示すことが重要で、それを学校問題として取り扱っていくのは、間違っていると思う。みんなで考え、学校の方向性、支援の方向性をしっかりと立てていかないと、子ども達にも、地域にも、教員にも辛いと思う。</p>
井上委員	<p>生徒は、中体連の登録は学校名でしか登録できないのか。「丹波篠山市」という登録では中体連の試合に出ることはできないのか。</p> <p>丹南中学校でクラブチームに所属している子が大会に個人戦で出場しようとした際に中体連の登録をしないと出場できないということがあったと聞いた。</p>
酒井市長	<p>「〇〇中学校・〇〇中学校合同チーム」という名前で出場する。規程のことは保護者もよく分かっていない。私も今まで分かっておらず、今回の資料を見て初めて知った。</p>
酒井次長 酒井市長	<p>「〇〇中学校の〇〇部」という登録になる。</p> <p>今後、中体連で新しい方策ができるかもしれないが、現状では丹波篠山市全体のチームはできない。酒井委員が言われたように、部活動を残すことで教員に過剰な負担をかけるのも良くないので、どのような支援ができるのか検討しなければならない。</p>

前川教育長	<p>本日、篠山東中学校は全ての保護者に対してではなく、ソフトボール部の保護者に説明をしている。ソフトボール部が存続することによって、ほかの部にも影響が出ることも説明している。</p> <p>受け皿という言葉が適切であるか分からないが、これからは市全体でスポーツ振興としての受け皿も考えていく必要があると思う。そこで他校の生徒との交流やスポーツの良さも感じる事ができるであろう。ただ、難しいのは、これは中学校枠を外してしまわないとできない。部活動は学校生活で大事である。</p>
酒井市長	<p>私は違う考えである。学校で実施するから部活動である。「部活動にない競技がしたければ学校を外れて、クラブチームで活動すればよい」ということは違うと思う。私は、部活動を残したうえで「合同チーム」の道を広げて残していく考えである。学校で同級生、先輩後輩とするのが部活動であり、中学校でクラブチームの硬式野球をしている生徒がいるようだが、それは特別のものであると思っている。</p>
前川教育長	<p>スポーツを部活動として楽しみたいというのであれば、部活動して市全体で集まり、部活動として成立させる方向を見いだしていく。どうしてもやりたい競技があるのであれば、スポーツ振興として取り組んでいかなければならない。難しい判断であるので、保護者や生徒がどう考えているのかアンケートをしている。</p>
酒井委員	<p>いずれにせよ、全てをクリアすることは難しい。どこかでは線は引かないといけない。こちらは残して、こちらは残さないとなると様々な問題が起こってくる。様々なことを想定した対応が必要である。</p> <p>「指導員」の話が出てくるが、学校の中でのトラブルが一番多いのは部活動である。人間関係も非常に難しい。外部の方が来て技術だけでなく、人間関係等の指導等を行ってもらいと難しさがでてくる。部活動の目指すところが、子ども達が主体的な活動ができるようになることであるとする、一昔前のスポーツ指導者の感覚でされると非常に困るところもある。</p>
酒井市長	<p>「指導員」が特別な技術を要する必要があるのか、それとも、地域の経験者で対応できるのか分からない。</p>
前川教育長	<p>篠山東中学校は、特別な技術を持つスペシャリストよりも、保護者のような近い存在に見守ってもらう方が、現状はありがたいと言われていた。</p>
酒井市長	<p>地域の方も、地域で作る学校であるので文句を言うだけでなく、見守ってほしいところもある。</p>
酒井市長	<p>「指導員」を学校に固定せず、定期的に各校へ異動して指導してもらうことはできるのか。</p>
尾松課長	<p>配置できる人材がいれば可能である。</p>
前川教育長	<p>教員の人事は部活動で配置はしない。教科によって配置を行う。部活動を任されてから勉強して指導を行うことも多々ある。専門的アドバイスが必要な教員もいれば、ある程度の経験値もありスポーツ科学などを熟知し</p>

	<p>た教員もいる。それぞれに合わせて「指導員」を配置することが重要である。どちらにしても子ども達と信頼関係が築け、引率業務をしてもらえる方がいれば非常に助かる。ただ、学校では毎年在籍する生徒で状況が変わることも考慮する必要がある。</p>
酒井委員	<p>中学校教員は、部活の指導をしたくて教員になったという人もいる。今回の問題で一番傷ついているのは、中学校教員だと思う。廃部にすることは教員にとっても辛いことで市長が言われたように、なんとか学校を応援するような話が進められたらと思う。現状では苦渋の選択であったことを理解している。</p>
酒井市長	<p>篠山東中学校は協議をしているとのことなので任せるとして、市全体でルール統一化しないと同じ問題が発生する。それから支援のあり方を具体的にしていきたいがどうか。</p>
井上委員	<p>卓球や、剣道などは個人競技がある。個人競技は、男女で分けて部活を運営しなければならないのか。陸上部も団体にこだわらなかつたら個人種目でやっていける。個人でできるものを男女別にし、さらにチームで組める人数がいないと廃部になると、選択肢を狭めていくと思う。個人戦で出場できる競技があるならば、男女分けることなく、団体戦に出られなくても、部活として存続することは学校運営上難しいのか。</p>
酒井委員	<p>これまでの発想を柔軟にし、子ども達が少ない人数の中でいろんな活躍できる場を設けることは重要であると思うが、今回は方向性の議論ができればよいのではないか。個別具体は方向性が決まってから詰めていく作業に移る方が良いと思う。</p>
垣内委員	<p>学校と地域が乖離していくことが一番悲しいことで、校長は今回苦渋の決断をされている。校長がもっと柔軟に判断できるような素地を作るのが我々の責任であると思った。どの案を行うにしても、地域の方の協力を得ることが必要になると思うので、それを踏まえうえて、今後の丹波篠山市の中学校部活のモデルを考えていくしかない。</p>
酒井市長	<p>ホッケー部は、特殊なケースとして、他で合同チームを組んだ場合は、練習への送迎等はどのようにしているのか。</p>
尾松課長	<p>各保護者が送迎するケースや顧問が引率する場合がある。合同チーム間で保護者会をもったりして、その中で協議をして取り決めしている。</p>
酒井委員	<p>教員が送迎しているのか。親が自分の子どもを送迎するのか。</p>
尾松課長	<p>現地集合である。</p>
酒井委員	<p>自分の子どもだけを送迎し、教員が送迎することはないということか。</p>
尾松課長	<p>それはない。</p>
酒井委員	<p>そうであれば、マイクロバス送迎等で対応しなければならないのではないかと。予算も含めて、柔軟な対応ができるような体制を組まなければ難しいと思う。</p>
尾松課長	<p>例えば、今年は「A 中学校と B 中学校が合同チームとなる。しかし翌年</p>

酒井市長	<p>は、A 中学校は単独でチームが組めて、B 中学校は組めない。そのため B 中学校は C 中学校と合同チームを組む。」というように合同チームが部活動存続の手段となり、部活動本来の目的を達成するために使われなくなることが懸念される。あくまで合同チームは最終の手段であると考えて。慎重に議論しなければいけないと考える。</p> <p>今の説明は腑に落ちた。合同チームになることで集まって練習をすることが難しいことや年度によって組む相手も違ってくるということ理解したので、具体的にどういう案があるのかを教育委員会で考えてほしい。これまでのように各校で規定がある状態では、同様の事案が発生すると思うので、緩和も含めて支援の方向を考えてほしい。</p>
酒井次長	<p>部活動の運営については、新学習指導要領でも記載されているように「持続可能な運営体制が整えられるようにする」というのが今後大事になってくる。スポーツ庁の「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」と兵庫県の「いきいき運動部活動」には、「生徒は生涯に亘って豊かなスポーツライフを実現できる資質能力を育む基盤として、運動部活動を持続可能なものとするため、速やかに運動部の在り方に関して関係者が役割分担など抜本的な改革に取り組む必要があります。合わせて、今後少子化の更なる進展を踏まえると、学校の運動部活動については、学校単位での活動から、一定規模での地域単位での活動も視野にいれながら、体制を構築する必要があります。」と記載されており、これを踏まえて考えていく。学校単位で対応することに難しさが出ていることを国も分かっている。</p>
酒井市長	<p>将来的には、以前説明を受けたような「丹波篠山市」という市全体のチームを作っていく方向で良いと思う。しかし、現状は中体連が決めている規約の中で現実の方法を考えること優先である。その後、中体連等に働きかけていくという流れで考えてほしい。「丹波篠山市」チームをつくっても中体連に認められなければ試合に出られない。</p>
尾松課長	<p>全国的にみれば、中体連にこだわらず脱退しているところもある。スポーツ庁が出している目的を達成できるだけの物理的なキャパシティがあるのであれば、生徒と教員がこれまで培ってきた本来の部活動のやり方が私もよいと思うし、教員もそれを一番望むところであると思う。ただ、生徒数が減っていくなかで、単純に人材を配置したからといって持続可能な形が作れるかどうかということとは分からない。</p> <p>学校の中に新しい仕組みをつくるということは、長期的な見通しが必要であり、そこを疎かにしてはいけないと思う。これから人口減少がしていく事実と教員がそれに対応できるのかという実態も踏まえて慎重に議論いただきたい。</p>
中村委員	<p>今回の署名活動については、少し乱暴なやり方であったように思う。署名に対応をするという前例を作ることは良くないように思う。声の大きい者の意見が通ることになるのではないかと懸念する。第 2、第 3 の署名活</p>

酒井市長	<p>動に展開しないようお願いしたい。</p> <p>基本的に学校と教育委員会は、学校運営を第一に考えており、部活だけのことを考えているわけではない。そのあたりを地域の方には理解をしていただきたいと思った。学校運営協議会は、学校の応援団であり続けてほしいというのが願いである。</p> <p>それはおかしい。さっき言ったように学校運営は地域と一緒にするもので、署名活動を批判するのはおかしいと思う。保護者や地域の方は、やむを得ず署名活動をしているわけであり、学校、教育委員会に意見して解決しているのであればすでに解決している。学校運営協議会は学校を応援するためのものではなく、地域の学校をみんなで考えようとする組織であると思う。市民みんなの意見を聞いてやる。声の大きい者が勝つのではない。請願でも署名でも、民主主義の意思表示の表れであるから、今の発言は、教育委員会に歯向かうなというように聞こえる。</p>
酒井委員	<p>中村委員が言われる応援団というのは、みんなで協力して学校を進めるという意味で、市長と言われている内容とあまり変わらないと思う。ただ、それを議論する場があまりなかったと考えられるので残念である。市長の熱い思いも聞くことができ、解決策の提案を求められたので、学校も地域も喜ぶような策を考えたい。</p>
酒井市長	<p>中村委員に失礼なことを言ったが、署名活動した人は、やむにやまれぬ思いであるので、変に歪められたみたいな捉え方をされるのはおかしいと思う。むしろそういった声に耳を傾けて、納得してもらえよう解決を図っていくべきではないかと思う。</p>
酒井委員	<p>初めに言ったが、そこまで学校を追い込んでしまって、具体的な対策を早期に出せなかったことについては、教育委員会として危機感がなかったと言われても仕方がない。</p> <p>独立行政の立場としては、全てを市長へ助けを求めることになるとおかしいという思いもある。教育委員会としてのチェック機能と方向性の重要性については、再三教育委員会事務局に言ってきた。それは私たちの責任ではあると思っている。市長もそのあたりご理解いただきたい。</p>
酒井市長 酒井次長	<p>私も考えるが、現在の制度の中で有用な案を酒井次長に考えてほしい。</p> <p>議論の中で、部活動のあり方の規程やルールを揃えて作ってはどうかという話もあったが、部活動が学校の教育課程の一環である限り、こちらで指針等はできたとしても、学校の最終責任は学校長にあるので強制はできない。そのことをご承知いただきたい。</p>
酒井市長	<p>もちろん学校への強制はできない。だが、規程の統一性がない状況で、今回のような問題が起こっているのであれば、教育委員会、市として統一を考えていることを学校と議論してほしい。それでも合理的な理由により断られるなら仕方がない。しかし、これまでのように学校が決めることに、外部の意見は外圧だということはおかしいと思う。地域の声、市長の声、</p>

酒井委員	署名活動、全てが外圧だということはおかしい。そういう捉え方では、話し合いをしても仕方がない。学校だけで問題解決できないから意見を聞いて地域で責任を持つことが求められている。これが「地域に開かれた学校」ではないか。総合教育会議も、教育要件に必要なものを定めるためにある。今回よい話をされたので、今後は「就学前」などいろんな方向性を総合教育会議のなかで論議すべきだと思う。
酒井市長	部活に限ることではない。いじめがある、学校が荒れている、それは学校の責任ではなく、地域も一緒に解決するものである。学校の困ったことは地域と一緒に解決すればよい。なにも恥ずかしいことではない。よりよい学校となるように連携してほしい。
酒井市長	3 「その他」に移る。 1 点目は、丹波篠山市教員 OB の小林弘二氏からの教育提言についてである。内容はかなり以前のことであるので、現状と少し違うこともあるかもしれないが、「道徳教育」、「愛国心」、「家族愛」、「ふるさとへの気持ち」、「人権教育と同和教育」、「国家」について述べられている。これについて、教育長は何か感想があればいただきたい。
前川教育長	夏休みの水泳指導について触れている提言があったが、ある時期から実施しなくなった。貴重なご提言だなと感じ、校長会でも提言を紹介した。
酒井市長	卒業式での国歌斉唱について、最近の子ども達は歌っているのか。
酒井次長	歌っている。
酒井市長	県議会議員をしている時に教員のなかで国歌や国旗に嫌悪感を抱かれる方もあって、難しい面があると県教委で聞いたことがある。市長になってからも当時は市議会からも指摘が出ていた。人権教育で個人の自由などを教え、世の中のことや自分の責任のことは教えていないのではないかという指摘もあった。最近は随分と変わってきたと思うがどうか。
前川教育長	国歌斉唱について、こだわりをもって個人の主義主張をされていた歴史があった。何が大事かということや学校の中で議論をしていって、変えていったと思う。義務と権利、自由と責任というのは相反し、人としてバランス良くもっていかなくてはいけないので、この議論には道徳も入っている。小林先生が現役時代に思われていることが正直に書かれていると感じたが、今は時代が変わっているのが事実であると思う。
酒井市長	人権に関することで、まだまだ解決していない部分はまだあるということだが、かなりの改善が図られていることは間違いないと思う。「人権尊重のあたたかいまちづくり条例」という人権条例も作っている。
酒井委員	国旗掲揚や国歌斉唱は、抵抗なくやっているように思う。道徳教育ほど難しいものはない。諸外国では宗教による教えがあり、人間の生きる姿が決まってくるが、諸外国と比べて日本ほど宗教性のないところはない。日本は無宗教であると同時に、戦後の資本主義のあり方によってこのような

酒井市長	<p>形になってきた。そのことで歪がきており、この歪をどうにかするには、地域の大人が重要である。地域を守り育てることが子ども達に本当の意味の「徳」に繋がると思う。私は地域と一緒に、子ども達の「徳」については考えていきたいと思う。</p> <p>小林先生も、このように確固たる信念をもっておられる。教育委員会においても対応をお願いしたい。</p>
酒井市長	<p>2点目は、西村加西市長から、「県立高等学校の存続と定数の地域間格差の是正について」という申し入れがあった。県立高校の定員数を考える時期にきているようである。丹波篠山市では、篠山鳳鳴高校で定員割れを起こしているため、クラスを減らされる可能性がある。伴って部活の減少が予想され、さらに魅力が失うことが予想される。悪循環である。他地域でも同様の問題が起こっており、市長としても関心をもっていこうという加西市長からの呼びかけである。私も含め、多くの市長が賛成をしている。先日、篠山鳳鳴高校の卒業式に行ったが、良い生徒ばかりで頑張っていると思った。市内3高校との連携について、市長としてもできる限りの協力はするので、益々の強化を図ってほしい。</p>
酒井委員	<p>中学校の生徒は学力が非常に伸びている。学力状況調査による結果では、5年ほど前に比べると非常によく頑張っている。しかし、それが市内高校の進学とうまく結びついていない。また、学力だけでなく、自主的に行動ができる能力もこれから必要である。中学校の教育も、学力の向上に加え、自ら考えて行動できる力やバイタリティを養うことも考える必要があると思った。</p>
中村委員	<p>我が子も中学生で進学先を決める時期にあったが、中学校の学力向上に伴い、阪神間の偏差値の高い高校を目指す生徒が顕著に増えたなと感じた。</p>
酒井市長	<p>市内3高校との連携をどうやってとればいいのか。</p>
前川教育長	<p>中学校は対話的な授業への改革をしているが、子ども達は、卒業生から「市内高校は座学が多く、受け身的で面白くない。他校は面白い。」と聞いているようである。指導主事が市内高校へ見学に行ったが、授業改善が行われており、そのようなことはなかった。イメージを崩さなければならないが、中学校であろうと高校であろうと、教員はみな子ども達にとってよりよい授業となるよう改善を図っている。また、キャリア形成支援事業として「夢プラン」をしている。各高校は素晴らしいプレゼンをして学校の魅力を中学生に伝えてくれているので、効果を期待したい。</p>
酒井委員	<p>高校教員が今おられない中で断言もできないが、高校側も「中学生がこのように思っているから、このように改善したらどうか。」などの情報が欲しいのではないか。高校教員と中学校教員の情報交換の場をもっと設けてもいいと思う。優秀な生徒が市外の高校へ進学している現実に対して一緒に考えていくしかないなと思っている。</p>

前川教育長	<p>高校の校長と話していると、生徒数の減少に伴い正職員の配置も減少することを懸念していた。正規職員は、複数年在籍することになるので、「学校」をより良くするという意識をもちやすい。教師も生徒も自分の学校に対して誇りを持つことは非常に大事である。市教委としては、定数が減らないよう進路指導の中で、地元を薦めるような進路指導を考えていかなければいけないと思っているが、本人の選択があるので難しさが残る。</p>
井上委員	<p>市内の高校と中学が交流する機会が少ないと感じる。篠山鳳鳴高校は、インターネットを使用して他校と論議をされたことがあると思う。それを活用して中学生と丹波篠山市のあり方を論議するようなイベントがあってもおもしろいと思う。</p>
酒井委員	<p>一昔前は地域に特色がある教員がおられて、おらが学校というように教員それぞれが意識していた。断定できないがその意識がだんだん希薄になっているように思う。教員もいろいろな地域から来られて根を下ろされることなく、去られる部分もあるかもしれない。このような状況を情報共有しながら、高校を管轄している県にきっちり要望として、市長、教育長から言っていただき、特色ある活気に満ちた子ども達を育てる学校を作っていくしか道はないと思う。</p>
前川教育長	<p>高校教員とも顔見知りになってきていて、いろいろな話ができるような関係にはなっている。</p>
酒井市長	<p>篠山鳳鳴高校も、篠山産業高校も、篠山東雲高校も市外高校に負けていないと思うが、評価をされていないのが非常に残念である。市外高校へ進学したからと必ずしもそのあと丹波篠山へ戻ってこないということではないが、その傾向にあることは間違いない。保護者や子ども達へのPRも足りないと思うのでしっかりしていきたい。</p>
酒井市長	<p>3点目は、新型コロナウイルス感染症対策に対する現状とこれからについて伺う。小野高校は休校にしないのか。</p>
酒井次長	<p>小野高校は県立であるので休校にする。</p>
酒井市長	<p>では、休校の状況と子育て支援の状況について説明を求める。</p>
稲山部長	<p>休校の状況は、3月3日から3月15日までの13日間、市内の小中特別支援学校・幼稚園・認定こども園の4・5歳児クラスについて臨時休校措置を取っている。卒業式と、卒園式については日程がそのまま、来賓の出席を辞退して実施をするということで決定をした。</p> <p>幼稚園・預かり保育園・児童クラブの状況であるが、幼稚園は3月16日に再開し、3月19日に終業式を行う予定である。預かり保育を利用されている方については、やむを得ない場合に限り幼稚園で昼食終了までは預かるということで、保護者へできる限りの配慮をしている。卒園式は後日改めて園から連絡をすると保護者には伝えている。</p> <p>幼稚園の預かり保育は開所をすることで、午前中幼稚園でお預かりをし、</p>

	<p>その後預かり保育を行う。</p> <p>保育園は、通常どおり 7 時 30 分から 18 時 30 分まで開園し、児童クラブについては、学校毎に少し対応が異なるが、基本的に全て受け入れをする。園児児童の検温は必ず行っていただき、37 度 5 分以上の熱がある児童園児については、登園を遠慮いただく。「健康観察カード」を配布し、登園時に必ず確認する。</p> <p>できる限りの配慮をしたが、この対応でもまだカバーしきれない家庭があると思う。そのような家庭については、こども未来課に電話をいただくことができる限りの配慮をするということをお本日付で保護者にご案内をした。</p> <p>児童クラブの通常利用者数が 920 人で現在、利用の案内をしており、どれくらいの利用があるのかを聞ききとりをしている。最終の集計はまだ、であるが、920 人よりも下回る人数が見込まれており全て受け入れ可能であると想定している。預かり保育については、通常利用者数が 167 人、希望者が 123 人で、通常利用者数を下回り、希望通りに対応できる。マスクは、配布を終えている。</p>
酒井市長	<p>休校はやむをえない措置であると思う。児童クラブは朝から受け入れて、これまで利用していない方でも、特に必要であれば受け入れようということである。</p>
井上委員	<p>では、児童クラブ職員が把握している以外にも利用申込があるかもしれないのか。</p>
酒井市長	<p>そうである。また、預かりについても同じような対応をしている。</p>
稲山部長	<p>それが今の時点ではどれだけあるかはまだ分からない。</p>
酒井市長	<p>過度に反応して、全てを延期や中止にするのはどうかと思うが、国の指針に応じる必要があるのでは仕方がない。しかし、学校を休校にしても、児童クラブ等に子どもが集まれば、意味がないと思う。国の要請で大きく振り回されて困る部分もあるが、今後の対応は状況に合わせて検討したい。</p>
酒井委員	<p>市の幹部で組織される対策本部会議の中で決定される内容であると思う。教育委員会が単独で判断できるものではないと思う。市長が言うように、児童クラブ等に子どもが集まるのであれば、具体的な対策の方針を出さないと子ども達の安全は守れないと思うので、体制を整えてほしい。</p>
酒井市長	<p>小野市は休校の判断を総合教育会議でされている。私も反省している。過度な対応は不要で地域に合った対策が良いと思う。現状は稲山部長から説明があった対応である。</p>
垣内委員	<p>休校措置等を解除する際は、周辺自治体等に合わせるのではなく、丹波篠山市の状況に応じた対応をお願いします。</p>
前川教育長	<p>子ども達の健康状態を各学校園で収集し、市教委で集約をするようにしている。子ども達の健康状態と社会の状況に応じて判断する予定である。</p>
酒井委員	<p>市長部局と連携して対応してほしい。特に新しい取組をするときは、密な連携が必要だと思う。</p>

前川教育長	<p>政府が休校を要請した日は、午後 6 時過ぎに政府からの発表をニュースで知り、すぐに幹部を集めて協議をした。翌日の金曜日には臨時校長会を開催して指示をしなければ翌週からの対応に間に合わず、混乱を大きくすると判断をし、市長には全て事後の報告になってしまった。時間的な余裕があれば、皆さんにお諮りすることができたが、緊急事態であり事務局で判断したことを反省している。指摘があったように、児童クラブ等で子ども預かることの矛盾については、事務局でも議論をしたが、混乱と戸惑いを最小限に食い止めるためにこのような対応をした。背景等を考慮いただきたいと思う。今後の対応については状況に応じて、様々な配慮をしてやっていきたいと思う。</p>
酒井市長	<p>色々と大切な問題を議論いただき感謝する。</p> <p>総合教育会議をさらに活用できるのではないかと思った。教育委員会の皆さんにも失礼なことを言ったが、十分意思疎通を図りながらやっていきたいと思う。今後もよろしく願います。</p> <p>以上で、令和元年度第 3 回総合教育会議を終了とする。</p>